

【講義 5】 蔵書印について —印文の読み方・調べ方—

松永 瑠成

はじめに

蔵書印をはじめとする、書籍に押捺された印の判読は、書誌情報を作成する上で時として大きな障壁となり得る。本講義では、印記情報の重要性や印が捺される場所を確認した後、印文を判読するための方法、特に篆書体の字形学習や Web サイトなどを駆使した印文の読み方・調べ方について講述していく。

一、印記情報の重要性

書籍には、さまざまな印が押捺されている。そのうち、主要なものは以下のとおりである。

魁星印 蔵版印 版元印 引首印 落款印 遊印（詞句印） 仕切判（店判）
住所印 貸本印 仕入印 製本印 図書館印（受入登録印・寄贈印・小口印・隠し印・除籍印・消印など） 蔵書印

上記のうち、蔵書印はもちろんのこと、魁星印・蔵版印・版元印・引首印を除く全ての印も印記情報として採録するのが望ましい。それは、蔵書印が書籍の来歴・伝来を知る上で重要なものと同様、ほかの印も 1 つの情報源として無視することはできないからである。たとえば、貸本に供される書籍へ捺された貸本印は、貸本屋の名称や所在地のほか、その蔵書内容を知るための手掛かりとなり得る。また、本屋が書籍を仕入れた際に捺す仕入印は書籍の流通、製本師が捺した製本印（ただし、明治以降の書籍に限る）は書籍の制作背景などを知る上で、それぞれ貴重な情報源とされている。

印記情報に採録されなければ、本来そこにあるはずの印が、データ上はなかったことになってしまう。たとえ印文を判読できなかったとしても、そこに印がある、とい

う情報は記録しておく必要がある（例：「〇〇〇〇」ほか、黒印2顆あり」など）。

二、書籍に捺された印を探す

書籍に捺された印を印記情報として採録するには、まず印を探し出さなければならない。書籍には、印がよく捺される場所がある。題簽・見返し・冊首・巻首・冊尾・後ろ見返しなどは、その代表的な場所である。そのほか、稀に天や小口へも印は捺されることがある。調査にあまり時間を割けない状況であれば、これらの場所を重点的に探した方がよいだろう。だが、ほかの場所へも印が押捺されている可能性は当然ある。したがって、より正確に印記情報を採録するためには、天や小口を確認した後、表紙から後ろ表紙に至るまで、1丁1丁めくって印の有無を確かめていかなければならない。

書籍に捺された印のうち、注意すべきは仕入印と製本印である。仕入印の大半は、後ろ見返しの左下をめくった部分、製本印は刊記のほか、巻末の綴じ目の下方などに捺されている。いずれも見落としがちな場所であるため、十分に注意を払いながら確認していく。

三、印文を読む・調べる

印をみつけた後、印文を印記情報として採録していくこととなるのだが、なかには判読できないものもあるはずである。それらは、おおむね以下のように分類できよう。

- A) 鮮明だが判読できない印
- B) さまざまな要因（塗り消し・擦り消し・紙片の貼付・重ね捺し・虫損・汚損・破損など）により、部分的に読めない箇所を含む印
- C) さまざまな要因により、その一部すら判読できない印

Aの多くは、篆書体の印の場合であろう。こちらは後述する①から⑦により対処することができる。Bは、さまざまな要因（塗り消し・擦り消し・紙片の貼付・重ね捺し・虫損・汚損・破損など）により、鮮明な箇所と不鮮明な箇所とが混在し判読でき

ない印である。また、一部の文字の篆書体が読めないという印もこの B に含まれる。これらの場合、判読できた文字をもとに残りの文字を類推していくことができる。また、なかには撮影した印影の画像を反転させるほか、明るさやコントラストを調節することで判読できるようになるものもある。C は、B と同様の要因により、部分的にすら判読できない印である。全く判読できなければ当然印文も記述できないのだが、そこに印がある、という情報だけは何らかの形で記述しておいた方がよい。

篆書体の印文を読むためには、次のような方法がある。

①頻出する字の篆書体を覚える

篆書体の印、とりわけ蔵書印の印文には、頻出する字がいくつかある。たとえば「書」は、「〇〇蔵書」「〇〇図書」「〇〇書記」のような印文でたびたび用いられている。そのほか「蔵」「印」「図」「記」「之」、号に用いられる「齋」「軒」「庵」「堂」などもよくみられる。これら頻出する字の篆書体を覚える上で、参考になるのが堀川貴司氏原案・益満新吾氏増補および書「篆書の例」（【資料 1】）と、その増補版である益満新吾氏監修「難読篆書字形表」（【資料 2】）の 2 つである。【資料 1】【資料 2】は、ともに「難読字と頻出字」と「主な部首」から構成され、とりわけ前者が頻出する字の篆書体を覚える上で役立つ。それぞれ頻出字とその篆書体が数例挙げられており、これらの一覧と印文を照らし合わせることで、判読できるようになる蔵書印も少なくないだろう。なお、【資料 1】【資料 2】は、国文学研究資料館学術情報リポジトリ上で公開されている「篆字部首検索システム」（<http://id.nii.ac.jp/1283/00004720/>）のなかに、「tensho.pdf」（【資料 1】）、「tensho2.pdf」（【資料 2】）として収められている。

②部首の篆書体を覚える

頻出する字以外を判読する際、手掛かりとなるのは部首である。たとえばそのものを判読できなくとも、部首さえわかれば太甫熙永編『篆書字典』（国書刊行会、1978 年）や蓑毛政雄著『新装版 必携篆書印譜字典』（柏書房、2022 年。旧版は 1991 年）などの字典類を用いて調べられるようになる。印文の字と字典類の用例を見比べ、1 つずつ確認していく作業を繰り返すなかで、篆書体を少しずつ覚えていくことができ

る。部首の篆書体を一通り覚えられるようになるまでは、先の【資料 1】【資料 2】（「主な部首」）が参考になる。

③漢字を構成する部品から調べる

たとえ判読できなくとも、その漢字を構成する部品がわかれば、字を特定できる可能性は一層高まる。たとえば、「恕」という漢字は部首「心」と「如」からなるが、さらに分けると「心」「女」「口」の3つの部品へと分解できる。したがって、「恕」という字を判読できなくとも、「女」「口」「心」の部品がわかれば、その組み合わせで「恕」へと行き着くことができるのである。あとは字典類によって、その字の篆書体を調べればよい。漢字を構成する部品から字を特定する際には、「CHISE IDS 漢字検索」(<https://www.chise.org/ids-find>)や「字源.net」(<https://jigen.net>)、「篆字部首検索システム」(<https://seal.dhii.jp/char/>)などの Web サイトが役立つ。とりわけ「篆字部首検索システム」は、部品から字を特定できるだけでなく、あわせて篆書体の用例まで調べられるので有用である。

④蔵書印譜を活用する

著名な人物・機関などが使用していた蔵書印であれば、蔵書印譜に採録されている可能性がある。その場合、索引から印文を調べることができる。たとえば、渡辺守邦・島原泰雄編『蔵書印提要』（青裳堂書店、1985 年）や渡辺守邦・後藤憲二編『増訂新編蔵書印譜』下巻（青裳堂書店、2014 年）、中野三敏・後藤憲二編『近代蔵書印譜』6 編（青裳堂書店、2020 年）などは、索引から印文を検索できる上、その印の使用者（印主）をも調べられる。なお、『増訂新編蔵書印譜』下巻には、印の1字目だけでなく、2字目からも検索できる「第二字印文索引」が備わっている。

⑤大学図書館等が作成した印記情報を参考にする

大学図書館をはじめとする機関が作成した印記情報は、時として印文判読の際に参考となる。たとえば、CiNii Books (<https://ci.nii.ac.jp/books/>)は、「詳細検索」の「注記」に判読できた字を入力（例：「○○ ○○」など）して検索すると、「印記」

「蔵書印」「蔵書印記」などに採録された、調べている印と同じ印文（例：「〇〇△〇〇」）が、検索結果に含まれていることがある。そうして知り得た印文をもとに、字典類を活用すれば印文を判読できる。そのほか、早稲田大学図書館「古典籍総合データベース」(<https://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/>)などは、印文情報だけでなく、印が捺された書籍の画像も公開しているため、調べている印との比較が容易にできる。ただし、いずれの場合も印記情報が読み間違えられている可能性も考慮しなければならない。

⑥国文学研究資料館学術情報リポジトリの「蔵書印データベース」「篆字部首検索システム」を活用する

国文学研究資料館「蔵書印データベース」は、2023 年 3 月に公開が停止され、現在は一部のデータが国文学研究資料館学術情報リポジトリ上で公開されている。公開されているのは、国文学研究資料館が所蔵する資料をもとに作成された、レコードの CSV ファイル (<http://id.nii.ac.jp/1283/00004650/>) と「篆字部首検索システム」(<http://id.nii.ac.jp/1283/00004720/>) である。

CSV ファイル（「蔵書印 DB_典拠国文研のみ.csv」）は、「蔵書印データベース」のフィールド（「レコード ID」「蔵書印 ID」「蔵書印文」「蔵書印文別表記」「サイズ（縦×横）」「サイズ（縦×横）」「色」「色」「陰陽」「陰陽」「形状」「形状」「印影外郭」「印影外郭_1」「印影外郭_2」「印影外郭」「印文文字数」「印文出現位置」「印文行数」「印文行数_1」「印文行数_2」「印文行数」「印文改行表記」「書体」「人物 ID」「蔵書印主」「蔵書印主よみ」「職種 1」「職種 2」「時代」「印主職種／時代」「人物情報」「典籍 ID」「書名」「書名よみ」「人名 ID」「著者」「刊記」「所蔵先」「請求記号」「典拠資料」「典拠画像 URL」「備考」「画像有無」「画像」「画像全面」）を書き出したものである。このうち、「画像」「画像全面」にはそれぞれ印の画像と印が押捺された箇所へのリンクがあるものの、「蔵書印データベース」の公開停止に伴い、現在はアクセスできない状態となっている。扱いやすいデータとはいえないものの、印文や印主を調べる際には役立つこともあるだろう。なお、「蔵書印データベース」上で公開されていたレコードの大半は、後述する人文情報学研究所「蔵書印ツールコレクション」に引き継

がれ、現在公開されている。

「篆字部首検索システム」は、「蔵書印データベース」の姉妹サイトとして公開されていた「篆字部首検索システム（テキスト検索版）」であり、単漢字あるいは漢字構造（漢字を構成する部品）から篆書体を調べることができる。リポジトリのデータには、「篆字部首検索システム（テキスト検索版）」の web ページおよびソースコードが含まれており、かつて公開されていた時と同じ形のものを使用できるようになっている。なお、こちらも先の「蔵書印データベース」同様、後述する人文情報学研究所「蔵書印ツールコレクション」に引き継がれ、現在も公開されている。

⑦人文情報学研究所「蔵書印ツールコレクション」を活用する

前述のとおり、国文学研究資料館「蔵書印データベース」および「篆字部首検索システム（テキスト検索版）」は現在、人文情報学研究所「蔵書印ツールコレクション」(<https://seal.dhii.jp/>)に引き継がれており、それぞれ前者が「蔵書印データベース検索システム」(<https://seal.dhii.jp/sealdb/>)、後者が「篆字部首検索システム」(<https://seal.dhii.jp/char/>)として公開されている。また、「蔵書印ツールコレクション」では、「篆字画像検索システム（AI 篆字認識）」(<https://seal.dhii.jp/image/>)が新たに実装されている。

「篆字画像検索システム（AI 篆字認識）」では、印の画像から篆字 1 字を範囲選択し、解析することができる。解析結果では、第 1 候補から第 5 候補までの字が確率とともに示される。また、候補とされる字の用例を「蔵書印データベース検索システム」や「篆字部首検索システム」でさらに検索することも可能である。印がかすれていて鮮明でない、あるいはほかの文字（本文のほか匡郭も）が印文と重なっている場合などは、紙に書き写した印文を撮影した画像で解析させるとよい。

利用上注意すべきなのは、認識結果に示される字はあくまで候補であり、必ずしも正しいものとは限らないという点である。そのため、第 5 候補までの認識結果だけでなく、それぞれの字の篆書体もあわせて確認することを推奨したい。「篆字画像検索システム（AI 篆字認識）」の詳しい使用方法については、「画像検索の使い方」(<https://seal.dhii.jp/help/image/>)を参照されたい。

■参考文献■

【研究書】

鈴木俊幸著『書籍流通史料論序説』（勉誠出版、2012 年）

鈴木俊幸著『書籍文化史料論』（勉誠出版、2019 年）

【字典・印譜など】

太甫熙永編『篆書字典』（国書刊行会、1978 年）

蓑毛政雄著『新装版 必携篆書印譜字典』（柏書房、2022 年。旧版は 1991 年）

渡辺守邦・島原泰雄編『蔵書印提要』（青裳堂書店、1985 年）

中野三敏・後藤憲二（5～6 編）編『近代蔵書印譜』初～6 編

（青裳堂書店、1984～2020 年）

渡辺守邦・後藤憲二編『増訂新編蔵書印譜』（青裳堂書店、2013～2014 年）

【Web サイトなど】

国文学研究資料館「蔵書印データベース」(<http://id.nii.ac.jp/1283/00004650/>)

国文学研究資料館「篆字部首検索システム」(<http://id.nii.ac.jp/1283/00004720/>)

九州大学附属図書館九大コレクション「蔵書印画像」

(https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_browse/seals/?lang=0)

人文情報学研究所「蔵書印ツールコレクション」(<https://seal.dhii.jp/>)

「CHISE IDS 漢字検索」(<https://www.chise.org/ids-find>)

「字源.net」(<https://jigen.net/kanji/>)

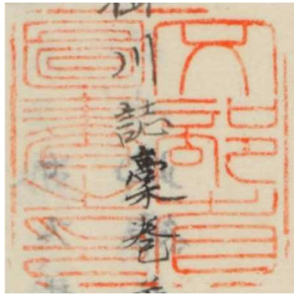


人文情報学研究所

「蔵書印ツールコレクション」

(<https://seal.dhii.jp/>)

練習問題



Q1「文部省／〇〇〇〇」

国文研蔵『掛川志稿』

DOI : 10.20730/200018358



Q2「蘿月〇」

国文研蔵『舜水先生文集』

DOI : 10.20730/200017242



Q3「栄郭／〇〇」

国文研蔵『芳洲口授』

DOI : 10.20730/200012303



Q4「読杜／艸〇」

国文研蔵『東見記』

DOI : 10.20730/200020231



Q5「〇吹／園〇」

国文研蔵『久保之取蛇尾』

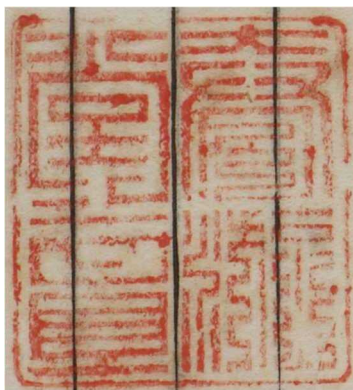
DOI : 10.20730/200020222



Q6「秋霜〇／松〇〇／〇〇〇」

国文研蔵『御用達綱目』

DOI : 10.20730/200019344



Q7「春游／〇〇」

国文研蔵『弘道館記述義』

DOI : 10.20730/200017250



Q8「岸〇／〇〇」

国文研蔵『石城志』

DOI : 10.20730/200017449

書	書	書	書	書	書		中	中	中	中	中
図 (圖)	圖*	圖	圖	圖	圖	圖字通用*	以	以	以	以	
蔵 (藏)	蔵	蔵	蔵	蔵			其	其	其	其	
印	印	印	印	印	印		平	平	平	平	
記	記	記	記				主	主	主		
之	之	之	之	之	之		唐	唐			
斎 (齋)	斎*	斎*	斎	斎	斎	斎字通用*	卷	卷			
軒	軒	軒					曲	曲	曲		
庵 菴	菴	菴	菴*	菴*		菴字仮借*	道	道			
堂	堂	堂	堂	堂			台 (臺)	臺	臺	臺	
氏	氏	氏	氏	氏	氏		無	無	無	無*	无字通用*
字	字	字					寿 (壽)	壽			
父	父	父					史	史			
日	日						千	千			
山	山	山	山	山			公	公	公		
香	香	香	香*	香*	香*	香字通用*	者	者	者	者	
雲	雲	雲	雲	雲	雲		鳥	鳥			

※ 楷書体から類推しにくい字体を中心に取上げた。

※ 本資料の一部はJSPS科研費 JP18H05304 (研究課題: 蔵書印データベースの高次利用に向けた情報拡充と篆字学習インターフェースの開発) の助成を受けたものです。

イ	人	人	人
儿	儿		
シ	人	人	
リ	人	人	
力	力		
勺	勺		
口	口	口	
大	大	大	
大	大		
女	女	女	女
子	子		
寸	寸	寸	
彳	彳	彳	彳
心	心	心	心
忄	忄	忄	
シ	シ	シ	シ
彡	彡	彡	

扌	扌	扌	
戈	戈	戈	戈
攴	攴		
方	方	方	方
至	至	至	至
欠	欠	欠	
牛	牛		
禾	禾	禾	
夨	夨		
皿	皿	皿	皿
穴	穴		
竹	竹	竹	竹
艹	艹	艹	艹
糸	糸	糸	
羊	羊	羊	
耳	耳		
良	良	良	良

月	月	月	月
月(肉)	月	月	
舟	舟	舟	舟
虫	虫	虫	虫
衣	衣	衣	
西(西)	西	西	西
言	言	言	言
赤	赤	赤	
走	走	走	
辶	辶	辶	辶
邑(邑)	邑	邑	邑
	邑	邑	邑
金	金	金	金
隹	隹	隹	隹
音	音		
食	食		
首	首		

※ 基本の部首を中心に上げました。

※ 本資料の一部はJSPS科研費 JP18H05304 (研究課題：蔵書印データベースの高次利用に向けた情報拡充と篆字学習インターフェイスの開発) の助成を受けたものです。

藏 (藏)	藏 [○]	臧 ^{○*}	匡 ^{○*}	臧 ^{○*}	匡 ^{○*}	小篆 (以下同)
	匡 ^{○*}	臧 ^{○*}	臧字通用			
書	書 [○]	書 [○]	書 [○]	書 [○]	書 [○]	書 [○]
	書 [○]					
印	印 [○]	印 [○]	印 [○]	印 [○]	印 [○]	
図 (圖)	圖 [○]	圖 ^{○*}	圖 ^{○*}	圖 ^{○*}	圖 ^{○*}	圖 ^{○*}
	圖 ^{○*}	圖字通用				
之	之 [○]	之 [○]	之 [○]	之 [○]	之 [○]	
記	記 [○]	記 [○]	記 [○]			
斎 (齋)	齋 [○]	齋 ^{○*}	齋 ^{○*}	齋 ^{○*}	齋 ^{○*}	齋 ^{○*}
	齋 ^{○*}	齋字通用				
軒	軒 [○]	軒 [○]	軒 [○]			
庵 菴	菴 [○]	菴 [○]	菴 ^{○*}	菴 ^{○*}	菴 ^{○*}	菴 ^{○*}
	菴 ^{○*}	菴字通用				
堂	堂 [○]	堂 [○]	堂 [○]	堂 [○]	堂 [○]	
氏	氏 [○]	氏 [○]	氏 [○]	氏 [○]	氏 [○]	氏 [○]
字	字 [○]	字 [○]				
父	父 [○]	父 [○]				
者	者 [○]	者 [○]	者 [○]	者 [○]	者 [○]	
香	香 [○]	香 [○]	香 ^{○*}	香 ^{○*}	香 ^{○*}	香 ^{○*}
	香 ^{○*}	香字通用				
中	中 [○]	中 [○]	中 [○]	中 [○]	中 [○]	中 [○]
以	以 [○]	以 [○]	以 [○]			
其	其 [○]	其 [○]	其 [○]	其 [○]	其 [○]	其 [○]
平	平 [○]	平 [○]	平 [○]	平 [○]	平 [○]	
主	主 [○]	主 [○]				
唐	唐 [○]	唐 [○]				
卷	卷 [○]	卷 [○]				
曲	曲 [○]	曲 [○]	曲 [○]			
道	道 [○]	道 [○]	道 [○]	道 [○]	道 [○]	
寿 (壽)	壽 [○]	壽 [○]	壽 [○]	壽 [○]	壽 [○]	壽 [○]
無	無 [○]	無 [○]	無 [○]	無 [○]	無 [○]	無 ^{○*}
	無 ^{○*}	無字通用				
台 (臺)	臺 [○]	臺 [○]	臺 [○]	臺 [○]	臺 [○]	
史	史 [○]	史 [○]				
千	千 [○]	千 [○]				
公	公 [○]	公 [○]	公 [○]	公 [○]	公 [○]	
山	山 [○]	山 [○]	山 [○]	山 [○]	山 [○]	
居	居 [○]	居 [○]	居 [○]	居 [○]	居 [○]	居 ^{○*}
	居 ^{○*}	居字通用				

※ 楷書体から類推しにくい字体を中心に取り上げた。部首を一部含む。

※ 本資料はJSPS科研費 JP18H05304 / JP20K20325 (研究課題: 蔵書印データベースの高次利用に向けた情報拡充と篆字学習インターフェースの開発) の助成を受けたものです。

雲						
華						
天						
夫						
而						
士						
正						
田						
世						
矢						
長						
早						
甲						
德						
叟						
真						
鳥						
島						
在						
日						
神						
得						
出						
友						
君						
春						
来						
用						
法						
深						
此						
重						
兆						

※ 楷書体から類推しにくい字体を中心に取り上げた。部首を一部含む。

※ 本資料はJSPS科研費 JP18H05304 / JP20K20325 (研究課題: 蔵書印データベースの高次利用に向けた情報拡充と篆字学習インターフェースの開発) の助成を受けたものです。

[illegible]

※ 楷書体から類推しにくい字体を中心に取り上げた。部首を一部含む。

※ 本資料はJSPS科研費 JP18H05304 / JP20K20325（研究課題：蔵書印データベースの高次利用に向けた情報拡充と篆字学習インターフェイスの開発）の助成を受けたものです。

イ			
リ (刀)			
			小篆 (以下同)
斤			
力			
𠂇			
大			
𠂇 (収)			
女			
子			
寸			
彳			
心			
卜			
灬 (火)			
赤			
扌			
戈			
攴			
方			
犛			
欠			
牛			
禾			
𠂇			
皿			
穴			
竹			
艹 (艹)			
糸			
耳			
衣			
西			
月			
月 (肉)			
舟			
虫			
艮			
良			
𠂇 (水)			
亼			
𠂇 (阜)			
𠂇 (邑)			
金			
隹			
走			
辶			
乚			

※ 基本の部首を中心に上げた。

※ 本資料はJSPS科研費 JP18H05304 / JP20K20325 (研究課題: 蔵書印データベースの高次利用に向けた情報拡充と篆字学習インターフェイスの開発) の助成を受けたものです。

[illegible][illegible][illegible]

※ 基本の部首を中心に上げた。

※ 本資料はJSPS科研費 JP18H05304 / JP20K20325（研究課題：蔵書印データベースの高次利用に向けた情報拡充と篆字学習インターフェイスの開発）の助成を受けたものです。